

報道関係者各位  
(参考資料)

2023年2月1日  
株式会社インターネットイニシアティブ

## **IIJ IoTサービスのコネクティビティ機能を拡充し、IoTデバイスをインターネット経由でセキュアに接続できる「VPNアクセス」を提供**

-- IIJ以外のモバイル回線や海外現地回線でも安全に接続可能、IIJ IoTサービスの利用シーンを拡大 --

当社は、IoT デバイスからネットワーク、デバイスの監視や制御等を行うプラットフォーム、セキュリティ、クラウド環境まで、IoT システムに必要な機能をワンストップで提供する「IIJ IoT サービス」において、コネクティビティ機能を拡充し、IoT デバイスと IoT プラットフォームをインターネット VPN でセキュアに接続できる「VPN アクセス」を、本日より提供開始いたします。

これまで IIJ IoT サービスでは、IoT デバイスと IoT プラットフォームを接続するためのコネクティビティは、データやシステムのセキュリティを確保するため、当社が提供する IIJ モバイルサービスもしくは IIJ Omnibus サービスを利用する閉域網での接続を標準としていました。今回提供する「VPN アクセス」機能を利用することで、インターネット接続環境をもつ IoT デバイスなら、IIJ 以外のモバイル回線、Wi-Fi 環境、海外の現地回線などを使ってインターネット VPN で、セキュアに IIJ IoT サービスのプラットフォームに接続、利用できるようになります。

### ■背景

IoT の取り組みではセンシングしたデータをクラウド上の IoT プラットフォームに集約するだけでなく、IoT プラットフォームから IoT デバイスの監視や制御を行います。この際、インターネット経由で接続することは、送信されるデータのほかデバイスやデバイスに接続しているお客様側設備がインターネットからの脅威に晒されるため、これまで IIJ IoT サービスでは、IIJ の閉域網を用いたコネクティビティ機能を提供していました。しかし昨今の IoT ビジネスの拡がりに伴い、お客様が自社で持つ回線や海外の現地回線を利用したいといったニーズも多くなってきたため、今回、インターネット経由でセキュアに IoT プラットフォームに接続できる機能を新たに追加しました。

### ■VPN アクセスの概要

VPN アクセスは、IoT デバイスと IoT プラットフォームをインターネット VPN でセキュアに接続する機能です。お客様管理者は、専用のコントロールパネルを通じて VPN アクセスの接続プロファイルを作成できます。その認証情報にもとづいて、IoT デバイスはリモートアクセス VPN で IoT プラットフォームに接続し、各種機能を利用できるようになります。接続プロファイルはデバイスごとに作成・削除でき、IoT デバイスごとにコネクティビティを管理することが可能です。

VPN アクセスの主な特徴は以下のとおりです。

### 様々なコネクティビティを用いて IoT プラットフォーム機能を利用可能

IIJ が提供するネットワークサービスのほか、Wi-Fi 環境や他社モバイルサービス、海外の現地回線など、回線の種別問わず、IIJ IoT サービス プラットフォームの各種機能を利用できます。例えば、海外に設置した IoT デバイスを日本から遠隔で管理することも可能になります。

### WireGuard、L2TP/IPsec によるセキュアな接続方式に対応

リモートアクセス VPN は、軽量かつ設定が容易で IoT デバイスにも適した VPN ソフトウェア「WireGuard」と、産業用コンピュータとして多く利用される WindowsPC に標準搭載されている「L2TP/IPsec」の 2 つの接続方式に対応しており、安全な暗号化通信が可能です。

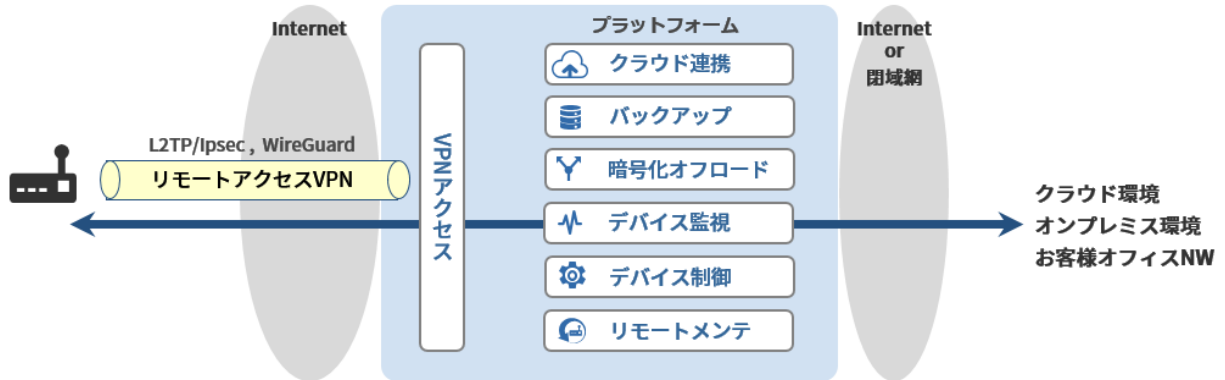
■提供価格

初期費用: 0 円

月額費用: 200 円/デバイス (1 デバイスは無償で利用可能)

※デバイスは、VPN 接続を行う機器ごとの単位となります。

■提供イメージ

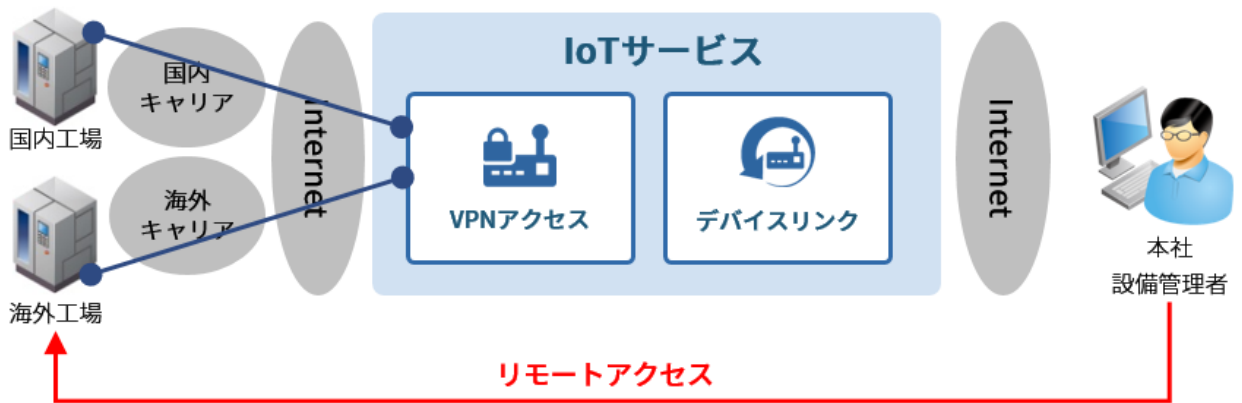


■主な利用シーン

<国内外工場設備へのリモートアクセス>

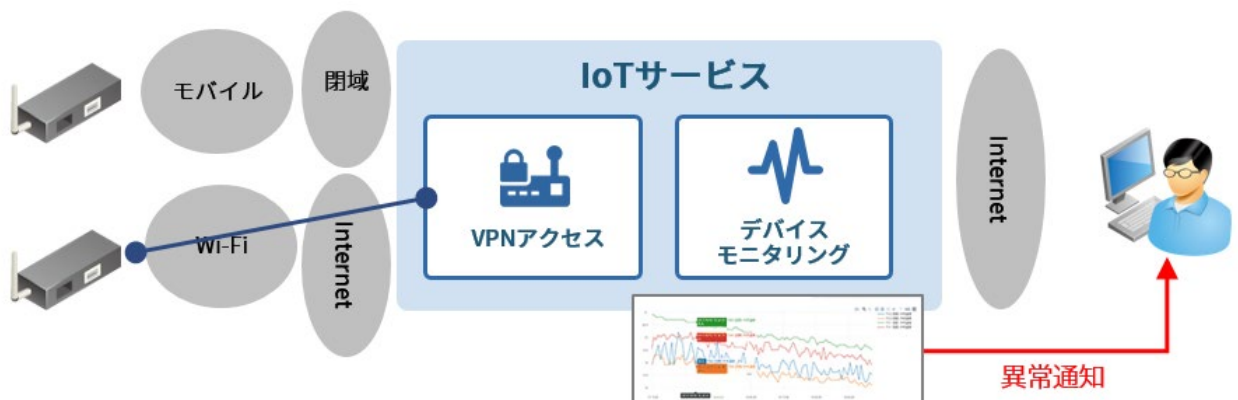
工場内の PC、ゲートウェイ機器から VPN 接続することで、本社などの遠隔地から工場内設備に対してデバイスリンク機能(※)を利用したリモートアクセスが可能です。

(※)デバイスリンク機能:IIJ IoT サービスの一機能で、遠隔地に設置した IoT デバイスにリモートアクセスし、設定変更やソフトウェアのインストールなどが行えるもの



<コネクティビティの併用(モバイル&Wi-Fi)>

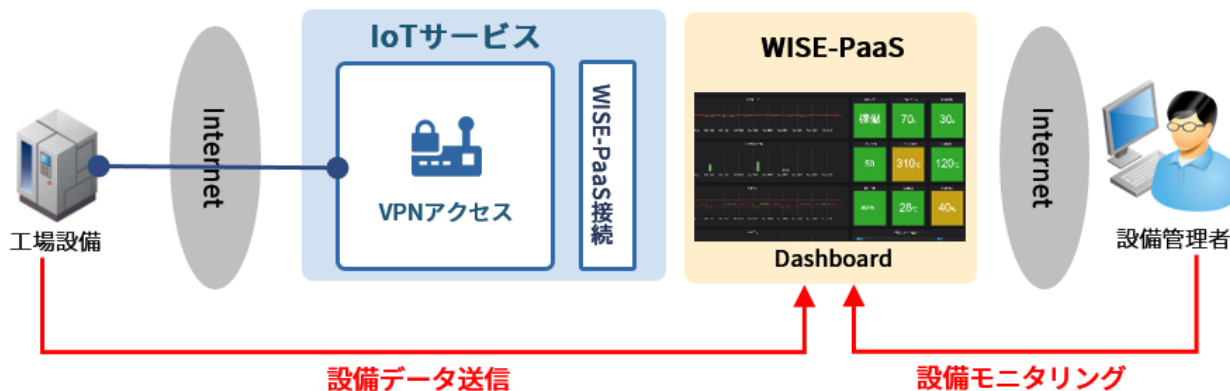
通常はモバイルで閉域接続し、モバイル電波に不安のある地域は Wi-Fi を利用するなど、コネクティビティを併用し、デバイスを一括管理することが可能です。



<既設インターネット回線を用いた VPN 経由の WISE-PaaS アクセス>

工場内に既設のインターネット回線があれば、同回線を利用して工場設備から VPN 接続を行うことで、WISE-PaaS IIJ Japan-East(※)に閉域網でデータ送信が可能です。

(※)WISE-PaaS IIJ Japan-East:グローバルに展開している台湾 ADVANTECH 社の産業向けプラットフォーム「WISE-PaaS」に IIJ のセキュアなネットワークとクラウドサービスを組み込んだもので、工場設備から様々なデータをリアルタイムに収集し、設備やラインの状況を可視化する。



➤ サービスの詳細については以下サイトをご覧ください。

<https://www.ij.ad.jp/biz/iot/>

当社は今後も、よりセキュアで安定した IoT システム環境を提供すべく、サービスの機能拡充に努めてまいります。

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 増田、荒井

TEL : 03-5205-6310 FAX : 03-5205-6377

E-mail : [press@ij.ad.jp](mailto:press@ij.ad.jp) URL: <https://www.ij.ad.jp/>

※本プレスリリースに記載されている社名、サービス名などは、各社の商標あるいは登録商標です。